

三一九一番

よしゑやし 恋ひじとすれど 木綿間山 越えに
し君が 思ほゆらくに

三一九二番

草陰の 荒藺の崎の 笠島を 見つつか君が 山
路越ゆらむ

三一九三番

玉かつま 島熊山の 夕暮れに ひとりか君が
山路越ゆらむ

三一九四番

息の緒に 我が思ふ君は 鶏が鳴く 東の坂を
今日か越ゆらむ